

学生交流から始める国際化

—中国語及び韓国語の履修学生を対象とした教育交流活動報告—

魏 穂君・酒勾 康裕

1. はじめに

大学における国際化とは海外の大学と交流提携を結び、学術交流や学生交流を中心とした相互交流や派遣があり、また一方で、在学している留学生との交流会やチューターとして日本人学生がサポート役になる等の活動が挙げられるであろう。そのため、学内における活動としては、留学生を中心とした活動となりがちであり、日本の在学生在が主となる活動、或いは留学生との対等な関係における交流は少ないのが現状であるといえる。

日本の大学では英語をはじめとした様々な外国語や外国文化の理解に関する講義が開講されているが、本学においても、平成20年度現在、外国語科目として英語の他にドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語、イタリア語が開講されており、同時に外国文化の理解のために「国際化と異文化理解」に関する授業も開講されている。学生は各自が興味のある外国語や外国文化を学ぶことができるが、外国語科目については中級レベル程度にとどまり、該当言語の母語話者との間で実際にコミュニケーションを取る等、学習したことばを実際に使った相互理解のための機会が非常に限られている。

上述した国際化が外国との交流が主な目的である「外との国際化」であるとするならば、学内において日本人学習者を中心とした教育活動を通じての「内からの国際化」も存在すると考えられる。つまり、日本の大学内において学生が学んだ外国語を用いて、その言語の母語話者である留学生と直接交流をすることにより、そのことばの話されている国や地域、人々に対する理解に繋がり、また同時に、外国語学習意欲の向上のきっかけにもなり、最終的には学内における「内からの国際化」¹⁾へと発展させることが可能であろう。

今回、「内からの国際化」の第一歩として、平成20年度前期に日本人学生と留学生との交流会である『パートナーシップ』を、後期には日本人学生が中国語または韓国語を用いてスピーチ形式で発表する『ことばのフェスティバル』を開催した。本稿ではこれら二つの教育交流活動についての報告を行なう。

2. 教育交流活動の必要性

『パートナーシップ』及び『ことばのフェスティバル』はこれまで本学における第二外国語教育の実践及び研究の流れから始まったものである。これは、カリキュラムの改定や教材の製作といった教育のシステム面において充実してきた結果、学習者が履修した外国語の基礎をしっかりと身につけた段階から、次のレベルへとステップアップを目指せる一段階にあると考えられる。つまり、「学んだことばを教室の外でも使ってみたい」「学んだことばが使われている文化に興味を湧き、ことばを使ってその文化に触れてみたい」等といった、ことばそのものの学習からことばを何らかの形で実践させようとする段階に移りつつあると言える。

これまで筆者（魏）の本学における中国語学習者の内発的動機づけによる学習動機の傾向を分類してみると、大きく次のようにパターン分類することが予測できる。

- ①中国を旅行してみたいため
- ②留学先として考えているため
- ③検定試験を目指し、就職に活かしたいため
- ④中国の文化を理解したいため

上記のように、中国語という語学そのものの学習も重要視されているが、文化的な側面からの接近も重要視されており、学習者の目的が多様化していると言えよう。

ところが、いざ学習者が教室の外で学習していることばに触れようと思っても、なかなかその機会に巡り会えず、結局、学習面でもそれ以上のレベルに伸ばしたり、モチベーションを維持していくことも容易でなくなってくるのが現状であろう。また、同じキャンパス内には学んだ外国語を母語とする留学生がいるが、彼らと交流する機会もなく、そのまま学生生活を終えてしまうケースが多い。

一方、留学生の状況を見ると、筆者（魏）の経験上、来日後、大学に入学してから1年次、2年次には日本語の授業を通じて日本語の学習が可能であり、また、留学生活の新鮮さから何事にもチャレンジしようという気持ちを持っているが、3年次には日本語の授業も履修しなくなり、専門科目の履修に入ると周囲の日本人学生ともコミュニケーションの接点が薄くなるため、日本人学生との付き合いが平行線のまま留学生活が終わってしまう。また、慣れている日本での生活でも価値観や行動様式の違いから、文化的な不適應も生じることあるため、留学生生活を成功させることができなくなってしまう場合もある。

このように、日本の学生と留学生の間には同じキャンパスにいながらもお互いの見えない壁や入りがたい輪が存在し、お互いにとって助け合える部分があるにもかかわらず、接点を持たないまま大学での4年間の生活を終えてしまう現実がある。

このような日本の学生と留学生の現状を鑑みると、相互の間にきっかけを提供し、そのきっかけを通じて積極的な相互交流及び相互学習を目的とした教育交流活動が必要になってくると言えるであろう。

『パートナーシップ』と『ことばのフェスティバル』はそれぞれが独立した内容の違うものであるが（詳細は次章）、お互いが有機的に機能しているものである。つまり、『パートナーシップ』において、これまで習った外国語を使うことにより、「通じる」ことを実感すると同時に自信に結び付ける。そして、パートナーとの出会いから友人に発展し、相互交流が始まり、そこでは、日本人学生や留学生の垣根を越えた様々なタイプの友人ができ、交流を通じて刺激を与えあうことにより、語学学習の面においても目的が多様化してくる。例えば、外国語であれば留学や検定試験に挑戦し、自らの目標設定や就職でアピールするための資格取得のための動機にも繋がることであろう。

また、『ことばのフェスティバル』では、聴衆の前で発表するために『パートナーシップ』で築いた友人と共に準備段階から発表原稿の作成作業、発表練習を通じながら学習者の語学力を伸ばすだけではなく、留学生の自文化発見にも繋がり（資料：『ことばのフェスティバル』パートナーの感想参照）、相互学習を通じた異文化理解教育も可能となるのである。

ここまでは外国語を学んでいる学習者を対象とした『パートナーシップ』と『ことばのフェスティバル』への参加意義について述べたが、中国語等の第二外国語は大学に入ってから初めて習う外国語である場合が多いため、入学して間もない学習者にとっては上記の流れからすると二つの活動は高い壁のように見えるかもしれない。しかし、個々の外国語のレベルに関係なく、相互交流することにより、異文化理解の活動へ繋がり、それがさらに質の高い外国語学習へと発展させることも可能である。

3. 教育交流活動の実践

ここでは『パートナーシップ』と『ことばのフェスティバル』の実施にあたり、①企画意図及び目的、②準備過程、③実施内容、④反省点についてまとめる。なお、それぞれの項目は語学教育部学習支援プログラム委員会における企画書と報告書を基に作成している。

3.1 『パートナーシップ』実施内容

① 企画意図及び目的

本学において第二外国語科目を選択する学生の中には、履修可能な授業科目数が豊富とはいえない状況でありながらも、非常に高い学習意欲を持っている学生がいる。彼らは、正規の科目以外にも、語学センターの講座をはじめ、さまざまなプログラムに積極的に参加し、授業内での学習という枠を越え、自らの語学力を用いて外国人と活きた会話を交わし、交流する機会を求めている。

一方、本学に留学している留学生の中には、日本という異国に身を置き、言葉や文化の壁を日々感じながら、日本人と交流する機会のないまま自国の仲間達同士で集まり、留学生生活を過ごしてしまう留学生もいる。彼らもまた、同年代の日本の学生と交流できるきっかけを渴望しているのは明らかである。

そこで、語学教育部第二外国語担当者より『パートナーシップ』と題し、日本の学生と留学生とが知り合い、親しく交流できる機会を企画した。はじめて出会う日本の学生と中国・台湾・韓国等の留学生が和気藹々と集い、互いの語学能力を運用しながら会話を始めることで、双方が求めている交流を実現して貰うことを目指す。後々、双方の学生達が各々重要なパートナーとして、自主的かつ積極的に文化交流活動を展開するためにも、この企画はその出発点として重要な意義を持つものとする。

② 準備過程

- ・第二外国語履修者への参加呼びかけ（ポスター掲示、授業内チラシ配布、語学教育部ホームページ掲載、近テレ放映依頼）
- ・留学生総会長及び各国留学生会長への参加呼びかけ
- ・参加受付（チケット発券、第二外国語サロン室利用）
- ・会場確保

③ 実施内容

- ・日時：2008年6月11日（水）午後2時50分～4時20分（第4時限）
- ・場所：11月ホール Cafeteria November

・当日の流れ

- ア. 受付後、6つのテーブルに日本の学生と留学生の比率を合わせながら着席
 イ. 教員、留学生代表、日本の学生代表挨拶
 ウ. 同じテーブルにいる学生同士の挨拶と名刺交換、フリートーキング（使用する言語はできるだけ留学生の母語を使用するように促したが、特に制限は設けない。）
 エ. 台湾の留学生による台湾のゲーム紹介
 オ. 座席を移動しながら名刺交換及びフリートーキング

・参加人数及び内訳

表1 参加人数 (名)

	事前申し込み	当日申し込み	合計
日本学生	33	6	39
留学生	26	6	32
	59	12	71

表2 参加学生の内訳（学部、日本の学生のみ） (名)

学部	人数	学部	人数
法	7	理工	3
経済	2	薬	1
経営	12	文芸	12

(申込時学部未記入2名)

表3 履修第二外国語（回答分、日本の学生のみ） (名)

ドイツ語	1	韓国語	2
フランス語	2	スペイン語	1
中国語	25	イタリア語	1

(二つの言語履修も含む)

表4 留学生の出身 (名)

中国	7	カナダ	2
台湾	8	インドネシア	1
韓国	10	パキスタン	1

④ 反省点

- ・当日の時間配分の再設定
- ・学生同士で話をしている間は食べる時間もないため、飲み物のみを準備する。これにより、会費をさらに抑えることもできる。(今回の会費は500円)
- ・履修外国語や参加動機等のアンケートを実施し、外国語教育、及び学習との関連性を探る。

3.2 『ことばのフェスティバル』実施内容

① 企画意図及び目的

2008年度前期(6月)には、留学生との交流会『パートナーシップ』を開催し、この交流会では、様々な留学生との交流のみだけでなく、学生の学ぶ外国語を母語とする留学生とパートナーができ、交流会以降も積極的な交流が続いている。

そこで、この『ことばのフェスティバル』では自らが身につけた語学力を活かしてスピーチ形式や短い演劇形式で発表することを、留学生との共同作業を通じて行なうことにより、学生に自信感を持たせ、学生間の活発な国際交流にも結びつくものと考えられる。

② 準備過程

- ・第二外国語履修者への参加呼びかけ(ポスター掲示、授業内チラシ配布、語学教育部及び大学ホームページ掲載)
- ・参加受付(第二外国語サロン室利用)
- ・会場確保
- ・留学生パートナーが必要な発表者への紹介
- ・発表原稿の受け取り(発表時間は3分に制限)
- ・当日配布資料作成
- ・中国語及び韓国語履修者への観覧案内

③ 実施内容

- ・日時：2008年12月10日（水）午後4時30分～6時00分（第5時限）
- ・場所：11号館5-4号室
- ・当日の流れ
 - ア. 受付、日本語に訳した発表要約集の配布
 - イ. 第二外国語教育主任の挨拶
 - ウ. 発表
 - エ. 中国語、韓国語歌詞でのクリスマスソング合唱
 - オ. 表彰
 - カ. 学習支援プログラム委員長による総評
 - キ. 記念撮影
- ・参加人数及び内訳

表5 発表学生の内訳及び観客数

*発表人数の（ ）内は学部別の人数

発表言語	発表人数	備考
中国語	9名（文芸3 経済2 理工2 法2）	
韓国語	3名（文芸2 経営1）	
合計	11名	1名当日不参加
観客	約50名	教職員も含む

・発表内容の審査

中国語、及び韓国語の審査各2名（ネイティブ1名、ノンネイティブ1名）による、語学面の審査と、学習支援委員（2名）及び第二外国語主任による、発表態度面からの審査

・結果

1位 - 文芸2年生（韓国語） 2位 - 文芸1年生（韓国語） 3位 - 理工2年生（中国語） 特別賞 - 理工2年生（中国語）

④ 反省点

- ・ 準備期間の十分な確保ができなかった。
- ・ スピーチ部門以外での参加（ショートコント部門、歌部門）の呼びかけ
- ・ 『パートナーシップ』との連続性強化
- ・ 発表内容のあらすじを日本語で解説する等、聴衆へのフォロー

4. 今後の発展にむけての課題

2008年度の教育交流活動を行なって今後の発展に向けていくつか課題が考えられるが、ここでは『パートナーシップ』と『ことばのフェスティバル』に共通する課題と、また、それぞれ個別の課題について挙げてみる。

① 共通の課題

- ・ 語学教育と関連するプログラムとしての定着

今回の教育交流活動を一過性のイベントで終了するのではなく、常に外国語学習が持続できるよう語学教育プログラムの発展型の一部として考える。これにより、モチベーションの維持、さらなるレベルアップに努めることができよう。

- ・ 参加者に対する履修外国語や参加動機等のアンケート実施

今回実施した分については資料として添付してある。全て主観式であったため、今後は外国語学習の動機づけや学習効果と関連付けた内容を取り入れてアンケートを実施する予定である。

- ・ 他言語に対する興味の喚起

日本の学生と留学生の間では非常に積極的に交流を行っていた。日本の学生同士でも、発表者の姿を見て他言語にも興味を持つようになった様子が伺え、他言語の学習にも影響を与えるものと考えられる。

- ・ 日本の学生と留学生の接点の確立

日本の学生も留学生も、お互い出会うきっかけを手探りしている状態である。中国語及び韓国語を履修する学生がどこで、どのようにすれば、中国語及び韓国語の母語話者と接点を持つことができるか、きっかけを提供する必要がある。また、その他の外国語、外国文化に興味のある学生に対しても同様である。

- ・ 教員間の連携

本教育交流活動を語学教育部の年間計画として組み込むことにより、年度初めか

ら各教員が意識的に授業中等で学生に告知することができるであろう。

・国際交流室との連携：留学生への支援

今回は留学生総会長と各国留学生会長を通じて各留学生に伝える形であったが、今後は入学時及び学期中に、学内に対して本教育交流活動が存在することを宣伝することで、留学生にとってもより一層近畿大学における学生生活を充実させることが可能であると思われる。

② 『パートナーシップ』の課題

・初学者への働きかけ

前期に実施するため、特に1年生を中心とした、第二外国語のいずれかを初めて学ぶ学生のモチベーションを維持するよう、積極的な参加を促す。

・大学生活におけるパートナー制度の確立

『パートナーシップ』時のみの交流で終わってしまったケースもあった。本来の実施意図であるパートナーと出会うことで、日本の学生と留学生が対等な立場で学習及び大学生活全般において切磋琢磨していく関係ができるようなパートナー制度を確立する。

③ 『ことばのフェスティバル』の課題

・発言言語の拡大

今回の発言言語が中国語と韓国語のみであった。今後は本学で開講されている初修外国語科目でも参加ができるよう、教員の協力を得ながら、多様性に富んだ『ことばのフェスティバル』を目指す。

・『ことばのフェスティバル』からの発展

『ことばのフェスティバル』を通じて、国際交流サークルの結成、中国語及び韓国語の新聞作成等の学生が主体的に動けるまで、教員側よりサポートを行ない、「相互接近、相互浸透」(魏：2008)を通じて教育の質の向上を目指す。

5. むすび

今回の二つの教育交流活動によって、参加者が交流により相互理解へのきっかけをつかみ、また、学習の共有化を得ることができたと言えよう。これは、「内からの国際化」、つまり、学内における日本の学生による外国語学習を主体的に行なうことから国際化を進め

るための、きっかけになる活動であったと言える。

今回の試みは、日本の学生、留学生といった枠を取り払い、それぞれの領域を越えて大
学生生活の4年間を一層楽しく充実させながら学べる環境作りであり、在学中だけでなく卒
業後も「近大で学べてよかった」、そして企業からも「近大の学生を採用してよかった」
という声が聞こえてくるための、第一歩である。また、留学生の満足度が上がれば、母
国における近畿大学のアピールが自然と行われ、「内からの国際化」から「外との国際化」
へと発展していくことであろう。

今回の教育交流活動の規模は決して大きいとは言えないが、毎年このような活動を定例
化することによって次第に規模が拡大され、本学の語学教育が活性化され、同時に在学
生の満足度を引き上げることに繋がるであろう。

註

- 1) 「国際化」という用語については様々な定義が見られるが、本稿で使用している「内からの
国際化」とは、日本において日本語母語話者に対する外国語教育や異文化教育を通じて外
国への理解を進めるための教育を表している。留学生、海外・帰国子女や定住外国人に対
する教育である「内なる国際化」(恒吉, 2005: 40)とは異なる。

参考文献

- 魏穂君 (2008) 「近畿大学におけるこれからの中国語教育 - 他者を尊重することを学ぶ -」『語
学教育部ジャーナル』第4号 pp.25-36, 近畿大学語学教育部
- 恒吉僚子 (2005) 「国際化と教育 - 『内なる国際化』の視点と日本の教育」『季刊家計経済研究』
第67号 pp.40-48, 財団法人家計経済研究所
- 同志社大学教育文化学研究室 (編) (2008) 『教育文化学への挑戦【第2版】 - 多文化交流から
みた学校教育と生涯教育』東京: 明石書店
- 新田誠吾 (2004) 「自律的な学習を促す『独習』の試み」板山真由美他 (編) 『学習者中心の外
国語教育をめざして 流通科学大学ドイツ語教授法ワークショップ論文集』pp.208-222, 東京:
三修社

資料編

1. 『パートナーシップ』への参加感想
2. 『ことばのフェスティバル』発表者の感想
3. 『ことばのフェスティバル』パートナー（留学生）の感想
4. 『ことばのフェスティバル』聴衆の感想
5. 『ことばのフェスティバル』中国語、韓国語での発表原稿及び発表原稿の日本語訳
6. 『パートナーシップ』及び『ことばのフェスティバル』の写真

* 感想や発表原稿に記載されている個人名を伏せてある。

1. 『パートナーシップ』への参加感想

パートナーシップに参加して、まず近大にこんなにたくさんの留学生の方がいるのだと知り驚きました。それと同時にたくさんの留学生や外国語に興味のある友達ができ、とても嬉しかったです。外国語に興味のある友達ができただけで、刺激され、私も中国語の勉強をもっと頑張ろうと思うようになりました。パートナーシップは友達の幅も、私の視野も広げてくれる、とてもいい機会でした。

(文芸学部 2年生)

友達と一緒にではなく、独りで参加したという事もある、かなり緊張したのを覚えています。留学生の子たちはけっこう友達同士で来てる子が多いようだったので話せるかなと思っていたけれど、たまたま同じテーブルで隣になった子に勇気を出して話しかけたら、すっごく気さくな子で、その子と友だちも一緒に楽しく話すことができました。日本語がすっごく上手でびっくりしました。その後のバーベキューには参加できなかったけれど、その後たまたま同じ講義をとっていて大学内で会ったら喋るようになりました。こんな機会がなかったら、留学生の友だちなんてできなかったと思います。本当に参加してよかったです。

(文芸学部 2年生)

まず、パートナーシップに参加したことを心から感謝します。たくさんの日本人と交流することができた。日本語を勉強することに非常に役立った。交流の間に、台湾と日本の違うところが比較できるし、今まで分からないことをたくさん教えられた。日本人と友になることが難しいと思うけれども、今度のパートナーシップに参加したら、いろ

んな話をしました。日本人と友になることは難しいことではない。近大に来て、みんなと出会って本当によかったと思います。またこのようなイベントがあるなら是非参加させて下さい。

(文芸学研究科留学生 1年生)

2. 『ことばのフェスティバル』発表者の感想

とてもいい機会を与えて頂いたと思っています。A先生やB先生をはじめとする先生方には大変感謝しています。留学生と関わりを持つ、いいきっかけにもなりました。準備期間中は、留学生と一緒にご飯を食べにいたり、中国語を教えてもらったりどれもこれも私にとっていい経験でした。普段できない、生の中国語を勉強できたと思います。発表は、運悪くトップバッターでとても緊張しましたが、雰囲気は温かくとてもやりやすかったです。みんなの発表を見ることもでき、非常にいい刺激になったと思います。是非、機会があれば、次もちろん中国語で出場したいです!!!

(文芸学部 3年生)

今回先生に薦められてコンテスト出場を決め、わずか二週間という期間で準備をしました。パートナーを紹介してもらい、すき間時間を見つけては添削・練習に励みました。いままで第二外国語として中国語をやってきましたが、正直ここまで力を入れたのは初めてでした☆お互い協力して築き上げていくことはとても大切だと思いました。賞をとることが大事なのではなく、参加して国際感性を豊かにしたり、交流を深めることのほうがずっと大事だと思いました。パートナーにはもちろん、先生にも紹介していただいたので感謝しています。クラスの間なども仲良くなることができました。ただもう少し練習する期間がほしかったです。(最低3週間ぐらい)もっともっと頑張ろうと思いました!

(経済学部 3年生)

今回、ことばのフェスティバルに参加してみて、多くのことを学ぶことが出来ました。私にとって中国語は1年生から勉強していて大好きなものでしたが、スピーチというのは初めてで今までとは全く違う中国語に対する関わり方でした。自分で中国語を考えてその発音練習をするのは、教科書や黒板と向き合う授業よりもっともっと積極的な勉強方法で、短い時間ですごく多くのことを吸収できたと思います。

今回が第1回であったということもあって、要領がよくつかめなくて、先生からこと

ばのフェスティバルをするということは早くから聞いていたのですが、実際の内容を聞いて、原稿を提出し、本番での発表までが非常に短くてあまりよく練習できませんでした。しかし、パートナーの方と密に時間をとって会って練習を見てもらうのは非常に良い経験でした。留学生の方と接する機会にもなって非常に嬉しかったです。

本番はとてつもない緊張に襲われ、場にのまれ、めちゃくちゃな発表になってしまいましたが、またそれも良い経験でした。

次回もまた参加したいと思います。

(文芸学部 3年生)

正直、このスピーチコンテストに出ることが決まったのがかなりギリギリだったので、原稿の準備が大変でした。申込みをしてから原稿提出日までが1週間もなかったので、どうしても期日までに完成させることが出来ませんでした。このスピーチコンテストに出たことで留学生と交流できたり、語学の勉強も出来たりと、いろいろな面でよかったことがたくさんあります。その中でも一番良かったことは、やはり人前に出て発表することができたことです。本番はとても緊張しましたが、人前に出て発表する勇気が少しいたのではないかと思います。この企画があったからこそ、留学生との交流、人前で発表する勇気など、いろいろなことを手に入れることができたと思います。この企画に参加できて本当によかったと思います。ありがとうございました。

(文芸学部 1年生)

私は中国語を勉強し始めて二年になりますが、今回のイベントは、その二年間がいかに浅かったかを教えてくれました。私が参加を決めた時は「きっと適当にやったらできるだろう」とたかを括っていましたが、本番に近づくにつれ、それが大きな間違いだと感じるようになりました。「このままでは駄目だ」と思ったとき助けてくれたのは留学生のパートナーでした。文章ガタガタ発音もガタガタだったのでこのパートナーと組むという制度は凄く有りがたかったです。

(理工学部 2年生)

ことばのフェスティバルに参加したのは就職活動のネタのためでしたが、パートナーと練習する度に仲良くなれたのがわかって嬉しかったし、当日も緊張しましたが、終わってみるとまた参加したいと思いました。人数もちょうどよくて、楽しかったです。

次回参加するときはコントとか面白いことに挑戦してみたいです。

(経済学部 3年生)

私がギリギリになってエントリーしたからなのですが、ドタバタの中で作業を行い、諸事時間が足りなかったことをまず思います。

留学生のCさんとの時間も意外に合わず、二回ぐらいしか会えなかったと思います。

ただ、忙しかった分非常に熱中できました。Cさんとの対話も、短い間でしたがとても楽しく、興味深いものでした。

結局、練習不足と手ばかりから発表はしどろもどろになってしまいましたが、すがすがしい気持ちで終えることができ、よかったです。

会場の雰囲気や先生方の司会は非常にテンポが良くて、私がちょっと警戒していた、雰囲気が詰まってしまうようなことが無く、発表が非常に楽に行えました。

不足が憂慮されていた発表時間が意外に適量だったのは、雰囲気が重くならず、参加者が勢いをつけて喋ることができたからだと思います。

難しい局面は多かったです。全体として勢いがある、とても楽しい会でした。

(法学部 2年生)

今回参加出来てとても良かったと思っています。とても楽しかったです。今まで授業等では受身の中国語でしたが、今回は留学生と協力しながら文章を考え、書き、読むという自ら行動して中国語に触れることが出来ました。最初は参加することに多少迷いがありました。知り合いの留学生がいなし、まったく中国語に自信がなかったので、参加を決めた時から不安に感じていました。しかし、何事もやってみないと分からないですし中国語に対しての恐怖感も少しずつ無くなっていきました。また、留学生と交流することで新たな世界を発見できスピーチの為だけでなく、私の成長にも繋がったと感じています。今回の参加を通して更に中国語が好きになり、今後もたくさんの経験をして中国語を学んでいきたいと考えています。もし、またこのような中国語に触れる機会があるならば是非参加してみたいです。皆さんが発表された原稿を読みたいですと思っているのですが、可能でしたら見てみたいです。ありがとうございました。

(法学部 2年生)

今回のことばのフェスティバルは自分にとっていい経験だったと思います。その中で

学んだことをいくつか挙げます。まずは、練習することは非常に重要であることがわかりました。なかなか文章が覚えられず、忙しい中でも覚えなければならないというプレッシャーは自分にとっていい経験になったと思います。また、パートナーにも忙しいながら付き添ってもらい、自分の弱点などいろいろ指摘してもらいました。自分にとって教科書だけでは知ることができない大きなことを学びました。パートナーにはとても感謝しています。2つ目に、人の前に出て発表する難しさを知りました。練習ではうまくいっていたことが本番になるとどうもうまくいかない…発表後は「もう少しうまくいったのではないか？」と後悔もしました。結果的に好成績をいただいたのですが、何か物足りない。そう思ったのは、もっと勉強・練習して自分を磨けという教訓を得たからだと思います。「向上心」を胸に、さらに自分の持つ力を高めていきたいと思います。

(理工学部 2年生)

今回参加させてもらって、とても良い経験をさせてもらいました。普段の授業で留学生と仲良くなることはないので、留学生の友達が出来たことが嬉しかったです。

でも残念だったのは留学生も授業が忙しいみたいで、本番までに一緒に練習する時間があまり無かったことです。

ペアの留学生が同じ学部の人だったら、時間ももっととれて、学部の話も出来ていいんじゃないかなと思いました。あと、出場者同士の交流がもう少しあったらいいなと思います。

今回、とっても楽しかったので、是非次回も出場したいです！

(文芸学部 2年生)

今回のスピーチコンテストで一番良いと感じたのは留学生と一緒に頑張るという形式です。留学生は大学内にはたくさんいても自分の周りにはあまりいなかったり近くにいても交流する機会がなかったりするので特にそう感じました。勉強を見てもらうだけでなく一緒に勉強していたら何かしら交流が持てるので良いと思いました。また今回のコンテストを見に来て同じ期間自分も勉強しているのにあんなにも流暢に喋る事が出来る人がいるのだと、とても刺激を受けたと言っていて出る人だけではなく周りの人に良い影響を与えられたのだと思いました。自分で原稿を作っていてまだまだ語学力が足りないこと、イントネーションが違うことを実感しもっと勉強を頑張ろうと思えました。自分がどれだけ上達したのか実力を図れる場だとも思うのでこれからもぜひ続けていって

欲しいと思います。

(文芸学部 2年生)

3. 『ことばのフェスティバル』 パートナー (留学生) の感想

漠然に日本語を習いたいと思って勉強してきてからもう8年近くなりました。でも未だにうまく喋ることができなかったのが今回のD君の発表の準備を手伝わせてもらったことがすごい幸運ではないかと思います。俺も最初は頑張ったな……など思いながら昔のやる気が戻ってきた感じです。D君から日本語の原稿をもらって、これをどうハンゲルに訳したらいいかな、日本にはない概念をどうやってうまく伝えるか、日本のハンゲル学習者に易しい発音にした方がいいかな等、いろいろ話し合いながら訳したことが本当に僕に役に立ったと思います。残念ながらD君が風邪で欠席することになりましたけど今回で日本人がどの部分を気になって知りたいのか少しは分かった気がします。これからの日本語の勉強に参考させていただきたいと思います。ありがとうございます。

(文芸学部 4年生)

4. 『ことばのフェスティバル』 聴衆の感想

私と同じ授業を受けているとは思えないほどすらすらと流暢な中国語、韓国語のスピーチでとても私自身刺激を受けました。中国語や韓国語がたとえ、聞き取れなくても、身振り、手振りや表情などで言いたいことが何となくでもわかるし、相手が懸命に話し、伝えようとしているとこちらも懸命に聞こうと思ったので、やはり、言語が違っても、互いが歩みより、互いが伝えようとすれば、国際的な壁なんてないのだということ、学ばせていただきました。とても面白かったです。

(文芸学部 2年生)

私は『ことばのフェスティバル』を見て、皆がつたない中国語か韓国語ながらも一生懸命スピーチしている姿がとてもカッコよかった。「きよしこの夜」を中国語で歌ったもの初めてだし、とても意義のある時間となった。

(文芸学部 2年生)

最初は正直、皆何を言ってるかどうせ分らんし、聞いているのは退屈やろうと思っていました。日本語で話す内容書かれたものもらいましたが、それがわかってしまう

と、もうつまらないだろうと高をくくっていました。しかし、実際発表が始まると、皆すごく言葉が流暢ですらすら話すので驚くとともにこちらも楽しくなってきました。感情移入してしまい、つかえたら私までハラハラしました。結果として、私の友達が優勝できたこともすごく嬉しかったです。

(文芸学部 2年生)

みんな本当に上手でびっくりした。同じ時間勉強した2回生、中には1回生の子までいたのに、自分は何やってたんだろうとってしまう。本当にがんばれば、あんなにスムーズに話すことができるのか。はじめは、聞いても意味の分らないスピーチなんて、途中であきるだろうなーと思っていたが、全然そんなことなかった。どの人も前を向いてハキハキとスピーチしていて、例え意味が分らなくても、聞いていてとても楽しかった。中にはその場でスピーチの内容を再現している人もいた。私の友人も参加していたのだが、彼女も本当によく頑張っていた。それを知っていたからこそ、他の人もきっと多大な努力をしてあの場に立っていたと分かる。みんな本当にすごいと思った。

(文芸学部 2年生)

見に行ってみようと気軽に行ったのですが、スピーチのレベルの高さに驚きました。眼をつむって聞くとネイティブみたいでした。今後は中国語と韓国語だけでなく、ヨーロッパ語圏のスピーチも聞いてみたいです。

(文芸学部 2年生)

いつも聞いている中国語と違って、みんな流暢に話すし、内容も面白いものが多かった。来年も開催するならもっといろいろな部門が増えるといいなと思う。

(理工学部 2年生)

みなさんの中国語・韓国語に対する興味、感心が100%伝わってきました。第2回も行きたいです。

(理工学部 2年生)

アットホームで楽しめたと思います。そんなにかたくなくて、フェスティバルで報告会とかじゃなくて、その言語に対する感想のように思えたので、他の外国語も聞いてみ

たかった。ドイツ語とか。あとスクリーンがあったので、訳文というか原文をスクリーンに映してほしかったです。聞き取れなくても、中国語か韓国語がのっていれば読めたと思うので、聞き取れなかったのが、ほとんどでしたがヤル気が出ました。

(理工学部 2年生)

中国語を学び始めてまだ1年も経っていないので、スピーチの内容はほとんどわかりませんでしたが、これから中国語を学んでいくうえで参考になる部分はいくつかあったのでよかったです。また、中国語の発音は難しいなとも思いました。

(学部不明 1年生)

Eさんの中国語、Fさんの韓国語でのスピーチはともに流暢で、素晴らしい出来であった。Eさんは後で失敗した満足のいかない発表だったなどと仰ってたように思うが、私から見ればそのようなことは全くなく、非常にすらすらとできました。Fさんは入賞できたことをお祝いしたい。1回生にもかかわらず、ネイティブかと思わせるほどで圧倒されました。内容については、私の実力上、あまり読み取れなかったが、本当に熱意が伝わってきて感動しました。感謝しています。

(理工学部 3年生)

5. 『ことばのフェスティバル』発表原稿 中国語、韓国語での発表原稿及び発表原稿の日本語訳

「私が思う台湾の魅力」

大家好！

我要介绍我最喜欢的台湾。

首先，我会知道台湾因为F4。

看了他们的连续剧以后，想要知道他们在说什么。

所以，上了大学以后，我开始学中文。

我第一次去台湾的时候，台湾人的热情让我觉得很惊讶。

我迷路的时候有一位老先生用日文跟我说话，他跟我说话的时候亲切感跟大坂的感觉很像。

我问他对日本是怎么样的感觉，

然后，他回答我说台湾的道路和房子是日本人作的对台湾的建设是很重要的事情。

日本在以前有占领过台湾的历史，所以长辈们对日本人的印象不好。

这件事情让我觉得很惊讶。

我觉得台湾最有魅力的地方是他们热情。

三分钟不能说完台湾的魅力，但是我想说的是我很喜欢台湾。

みなさんこんにちは。私は、Gです。今日は私の大好きな台湾を紹介したいと思います。まず、私が台湾を知ったのはF 4です。彼らのドラマを見てから彼らの言ってることが知りたいと思いました。だから、大学に入って中国語の勉強を始めました。初めて台湾にいった時、台湾人の情熱にとっても驚きました。道に迷った時、1人の老人が日本語で話しかけてくれました。親切なところが大阪人にとっても似ていると感じました。困っていると、いつも助けに来てくれます。しかも日本語を使って。そんなところがとても親切だと思います。だから、台湾の一番の魅力は人々が親切であることだと思います。三分では台湾の魅力は語り切れません。しかし、私が言いたいのは・・・私は台湾が大好きです！！！！みなさん有り難うございました。H先生ありがとう！！！！

「私の小さな小さな夢」

今年暑假，我去了温哥华游学了一个月。两周在语言学校，两周在日系的贸易公司见习，也去了很多漂亮的地方。在那儿，我也交到了很多外国的朋友。这是我渡过最快乐，也最充实的暑假，而且还有很多美好的回忆，并且学到了互相帮助的精神。

回到日本后，我开始对外国产生了兴趣。有一天我被I汉语的同学邀请参加国际文化交流会，那个交流会让我非常开心，因为在近畿大学從没有过这样的活动。另外，今年我修汉语课，听J老师说了很多台湾的文化。使我觉得英文和中文对我将来有很大影响。因此，我决定参加这次的讲演比赛。我想，如果我没修这堂课的话，也许我不会想再去国外，也不会想去了解其他国家的文化，不会有机会参加国际文化交流会，更不会想去认真学习中文吧！

因为有了这种种的原因，我一个小小的梦想，就是将来能成为一个，往返各个国家的国际人。

今年の夏休み、僕はバンクーバーに一ヶ月間インターンシップに行きました。二週間

語学学校で勉強して残りの二週間は日系の貿易会社で働きました。また、たくさんのきれいな所を訪れました。そこで、多くの外国人の友達ができました。今まで過ごしてきた中で一番楽しく、また最も充実した夏休みでした。たくさんの思い出があり、お互いに助け合うことの大事さを知りました。

日本に帰ってから、僕は海外のことに大変興味が出ました。ある日中国語のクラスメートであるIの誘いで国際交流サークルに参加しました。近畿大学にこんなサークルがあるとは知らなかったので、とても楽しかったです。英語だけでなく、中国語にも興味が出ました。J先生が台湾の文化についてたくさん話して聞かせてくれました。英語や中国語は僕の将来にたいへん大きな影響を与えました。このようにスピーチコンテストにも参加しました。海外に行ってその国の文化を学び、国際交流にも参加したので、さらに中国語を頑張ろうと思いました！

このような原因により、将来は国際ビジネスマンとして世界中で活躍するのが僕の小さな夢です。

「私が台湾を好きな理由」

大家好！！我姓K，叫L。

我非常喜欢台湾。今天，因为想让你们知道我为什么喜欢台湾，所以我把我喜欢台湾的理由告诉大家。

我喜欢台湾的最大原因是因为一个偶像团体叫“飞轮海”。大学一年级的時候，我在YouTube上第一次看到他们。他们唱歌，跳舞的样子，很帅！！我第一眼就喜欢上了。

以后，我开始听台湾的音乐，还看台湾的电视剧。我越来越喜欢台湾，开始对台湾的文化感兴趣。

二年级的春假，我终于能去台湾了。在台湾大学上课，还去了九份和西门町。珍珠奶茶，草莓冰，和包子都好好吃哦！

仅仅三个星期，可是很愉快，也很充实。让我更加喜欢台湾了。

总之，台湾的音乐很好听，电视剧也很有趣，有漂亮的地方，有好吃的东西，有很多帅哥美女，台湾真是个好地方。

以上就是我喜欢台湾的理由。

谢谢大家，听我的讲演！完毕了。

皆さんこんにちは！私はKLといます。

私はとっても台湾が好きです。今日は皆さんに私の好きな台湾を知ってもらうために、私が台湾を好きな理由を発表したいと思います。

私が台湾を好きになったきっかけは「飛輪海」という台湾のアイドルグループです。大学1年生の時、私は初めて彼らを You Tube で見ました。彼らの歌って踊っている姿はとてがかっこよかったです！私は一目で好きになってしまいました。

それから、私は台湾の音楽を聴くようになり、そして台湾のドラマを見るようになりました。私はますます台湾が好きになり、台湾の文化にも興味を持つようになりました。

2年生の春休み、ついに台湾に行くことが出来ました。台湾大学で勉強し、九份にいたり、西門町に行ったりしました。タピオカミルクティー、いちごアイス、饅頭はとてもおいしかったです！たった3週間でしたが、とても楽しく充実していました。もっと台湾が好きになりました。

つまり、台湾の音楽はとてもよく、ドラマもとても面白く、きれいなところがたくさんあって、おいしいものがたくさんあって美男美女がたくさんいる、台湾は本当にいいところです。

これらが私の台湾が好きな理由です。

皆さん私のスピーチを聞いてくれてありがとうございました！終わります。

「地下鉄の中で…」

제가 한국으로 홈스테이나 어학연수를 하러 갔을 때 자주 지하철을 타고 여러 곳으로 놀러 갔습니다. 이번에 지하철 안에서 마음에 걸린 것이나 일본과의 차이 등을 소개하겠습니다.

우선 한국의 지하철 안에서 자주 눈에 띄는 것이 물건을 팔고 있는 아저씨나 아줌마입니다. 우산이나 장갑 등 계절이나 기후에 맞는 물건을 팔고 있거나 CD나 신발 등도 팔고 있었습니다.

제가 고등학교 1학년 때, 한국말로는 인사 정도 밖에 말할 수 없었을 때 혼자서 지하철을 타고 처음으로 이 광경을 보았습니다. 갑자기 제 눈앞에서 물건을 팔기 시작한 사람이 있어서 정말 놀랐습니다. 그 때는 제가 한국말도 잘 모르고, 물건을 파는 사람의 말도 빨라서 뭐가 뭔지 이해를 할 수 없었지만 주위에 있는 사람들을 보면 무시하고 있는 것처럼 보였기 때문에 저도 못 본 척하였습니다. 그래서 그 이후 저는 같은 상황이 되

면 계속 못 본 척하였습니다. 만약 보고 있으면 말을 걸어올까봐 책을 읽거나 음악을 듣거나 해서 되도록 보지 않으려고 했습니다. 가만히 있으면 언젠가 말을 걸어올지도 모른다는 생각에 가슴이 두근두근 합니다. 하지만 상품에 관심이 있는 사람은 파는 사람에게 말을 건네거나 사기도 하지만 저에게는 용기가 없기 때문에 앞으로 같은 상황을 만나도 파는 사람이 저에게서 멀어져 가는 것을 기다릴 수 밖에 없을 것이라고 생각합니다.

이 밖에도 한국에서는 지하철 안에서도 휴대폰 통화가 가능하기 때문에 차내에서 통화를 하거나, 만원 전차 안에서도 노약자좌석이 비어 있거나, 좌석이 시트가 아니라 알미늄으로 되어 있는 전차도 있는등, 일본과 다른 것이 많이 있습니다.

해외에 가면 이처럼 일본과 다른 점을 발견할 수 있기 때문에 정말 재미있다고 생각합니다. 앞으로도 한국 뿐만 아니라 해외 여러 나라에 가서 일본과 다른 것을 경험하고 싶습니다.

私が韓国にホームステイや語学研修をしに行った時、電車を使っているいろんな所へよく遊びに行っていました。今回、電車の中で気になったことや日本との違いなどを紹介したいと思います。

まず、韓国の電車でよく見かけるのが、物を売っているおじさんやおばさんです。傘や手袋など、季節や気候に合ったものを売っていたり、CDや靴なども売っていました。

私が高校1年生の時、韓国語はまだあいさつぐらいしか話せなかったとき、1人で電車に乗り、初めてこの光景を見ました。突然自分の目の前で物を売り始めた人がいたので、ビックリしました。その時、私は韓国語がよく分からず、物を売っている人の話すスピードも速くて、何がなんだか分かりませんでした。周りにいる人たちを見ると無視しているように見えたので、自分も無視するようになりました。だからそれ以来、私はこの状況になると見ないようにしました。もし見えて、声をかけられたらどうしていいのかわからないので、本を読んだり、音楽を聴いたりして、なるべく見ないようにしました。それに、じっとしている時も、いつか声をかけられるかもしれないという思いから、心臓がドキドキしてしまいました。しかし、商品に関心がある人は、売っている人に声をかけたり、買ったりする人もいましたが、私にはそんな勇気が無いので、これから先同じ状況になっても、売っている人が自分から離れていくのを待つだけだと思います。

この他にも、韓国では地下鉄内でも電波があるので車内で電話をしていたり、優先座

席が満員電車の中でも空いていたり、座席がシートではなくアルミで出来ている電車があったりなど、日本と異なることがたくさんあります。

海外へ行くと、このような日本との違いを見つけることが出来るので、とてもおもしろいと思います。これからも、韓国だけでなくいろんな国に行って、日本と異なるところを見つけてみたいと思います。

「日本の不思議な文化」

你好、我的名字叫 M。

今天向各位介绍日本、请多关照。

那么、各位听到日本会想起什么？

武士、艺妓、刀、日本式牛肉火锅、キタノタケシ、富士山是日本的象征。

可是、我今天要向各位介绍的是关于日本的文化。

譬如、鞠躬是日本的文化。

谁知道鞠躬的意义吗？

日本人想表示感谢的时候和想表示道歉的时候都做鞠躬。

语言当中有和这个同样的东西、那是 "sumimasenn"

"sumimasenn" 在日语中也有表示感谢和道歉的意志。

为什么会有这样一語双关的单词。

那个为了考虑、请诸位、试着想象。

譬如各位请谁捡到了钱包、试着想象一下。

A「你、掉了钱包哟」

B「谢谢」

这样的交谈能想象到、在样的場要用 "sumimasenn"

这句话是表现前者对后者的感谢的心情。

这个 "心情" 是不能言表现的。

一般的来说对于其他国家的人看起来不可思议。

可是、我想各位听了我的演讲应该会明白了。

并且、我想请各位更加了解日本。

那个理由是、日本还有象 "鞠躬""sumimasenn"一样好的文化。

谢谢。

こんにちは、私の名前は M といいます。

今日は皆さんに日本についてのスピーチをさせていただきます、どうぞよろしくお願ひします。

さて、皆さんは日本と聞いて何を思い浮かべられるでしょうか？

侍、芸者、刀、すき焼き、富士山などが代表的な日本の象徴でありましょうか。

しかし、私が今日皆さんに考えて貰いたいのは日本の文化についてです。

例えば、“おじぎ”などは日本の文化であると言えるでしょう。お辞儀の表現する意味をご存じの方はいらっしゃいますか？

日本人は感謝を表したい時も、謝罪を表したい時もお辞儀をします、これと同じものは言葉でもあります。それは“すみません”です。

日本語の“すみません”も感謝と謝罪の両方を表現することができます。

皆さん想像してみてください。

例えば皆さんが誰かに財布を拾って貰ったとしましょう。

A「君、財布を落としましたよ」

B「すみません、ありがとうございます。」

というようなやりとりが想像出来ます。ここで日本語の場合“すみません”を使います。

この言葉には“気持ち”が込められているのです。

この“気持ち”は言葉で表現しないので世界の人から見れば不思議に思われてしまうのです。

しかし、今この話を聴いて頂いた皆さんには分かって頂けたと思います。

そして私は皆さんにもっと日本を知って貰いたいと思います。

なぜなら、日本には“お辞儀”や“すみません”のように良い文化がまだまだあるからです。

ありがとうございました。

「私の中国語の先生」

大家好！

今天我要演讲的题目是「我的中文老师」

记得我头一次遇见她是在「台湾留学团」起初还以为她是个很严格的人，但认识之后才发现她是个开朗的人！！

有时我觉得他不像个老师。比如台湾游学团去逛夜市时，因为她逛的最入迷，我们便和

她走散了。还是常对自己说「好麻烦哦」那就是因为这样我才觉得她是个的有趣的人。

而且他还像少女般浪漫，春天的时候她会捡樱花片，而秋天的时候会捡落叶並夾在笔记本裡，我觉得她很可爱。

虽然她看起来不像老师，但是我觉得是个很可靠的老师。参加外部演讲时，去台湾时她都很热心地帮助我，我真的很感谢她。能遇到这位老师真是太好了！

最后感谢大家的凝听。谢谢大家！！

みなさんこんにちは！今日私がスピーチするテーマは「私の中国語の先生」です。思い出すと、私が初めて先生に出会ったのは「台湾語学研修」です。初めは厳しそうな先生だと思いましたが、とても明るい人だとわかりました！！

私は、ときどき先生っぽくない人だなあとと思います。台湾の夜市に行った時も、自由に見て歩くので見失ってしまいました。また、よく自分の話をしてくれたり、「面倒くさい」と言ったりします。でも私はそこが先生の面白いところだと思います。

しかも、乙女なところもあり、春には桜の花びらを、秋には落ち葉を拾って手帳に挟むそうで、可愛いです。

先生っぽくないところもありますが、とても頼りになる先生です。他のスピーチコンテストに参加した時や台湾に行ったときに、熱心に助けてもらい本当に感謝しています。先生に出会えて本当に良かったです！！

最後にご清聴ありがとうございました。みなさんありがとうございました！！

「三国演义の序文に見る中国文化」

大家好！

很高兴能有这个机会，今天我要向大家说明一下关于中国文化的一些感受。例如，中国四大小说之一的「三国演义」的序中所述，滚滚长江东逝水。「逝水」这词在此文中可译为历史。这句话的意思是说，所有的历史都向长江水一样长流不息。

从这句话之中，我体会到了中国文化的伟大之处。也让我深深爱上了中国文化。

为了想要更多地了解中国文化，所以我开始学习了中文。

我的发表完了。谢谢大家！

みなさん、こんにちは。私はNといいます（発表会で付け足し）。

このような機会をいただき、本当に光栄です。今回、私は、私が中国文化について感

じたことを皆様に説明したいと思います。

中国四大小説のひとつ、「三国演義」の序文に、「滾々長江東逝水」とあります。「逝水」とは、この文中では歴史を意味します。つまりこの句は、「歴史は長江の水とともに、とどまることなく流れる」と訳すことができます。

この句の中に、私は、中国文化の雄大なところを感じます。

中国文化のこういうところが私は大好きです。

私は、こうした中国文化をもっと理解したいと思い、中国語の勉強を始めました。

私の発表はこれで終わります。

ありがとうございました。

「国際恋愛を通じて学び、感じたこと」

大家好

我是O。我现在是法学系二年级的学生。

这次我想谈有关于国际恋爱。

大家对国际恋爱有兴趣吗？我觉得有好的地方也有不好的地方。例如语言，文化，宗教和环境等等。因为我的男朋友是台湾人，所以我对国际恋爱很有兴趣。今天能提出来让彼此分享并改进，希望大家可以给我意见。

我先来谈我们是怎么认识的。有一天我去了在大阪的一间台湾料理店。那间店的老板娘是台湾人，刚好她是我的男朋友的姑姑。那时候正好他来日本玩。因此我们就认识了。刚认识时候，听不懂他在说什么。但因为他懂日语，而我会写中文，所以我们就用笔记本交谈。因为国籍的不同，让彼此增添了很多新鲜感，好像怎么聊都聊不完似的，语言瞬间也不成了问题。跟外国人谈恋爱的时候，我觉得大家最介意的就是语言。虽然彼此想法很重要，但是只要彼此有相互关怀的心情，即使再多的困难也能克服。

多亏他的帮忙，我的中文进步了。交外国男朋友不但外语能力向上，而且能学到很多外国文化。在比的各位同学有机会也交个外国朋友吧。完毕了。

谢谢大家。

皆さんこんにちは。

私はOです。私は今法学部2年生の学生です。

今回私は国際恋愛について話したいです。

皆さんは国際恋愛に興味がありますか？私は良いところや良くないところがあると思

ます。例えば、言語、文化、宗教、環境などです。私の彼氏は台湾人なので、だから国際恋愛にとっても興味があります。今日はお互いに分かち合い、改善させることが出来、皆さんが私に意見を与えることが出来るのを望みます。

私はまず私たちがどのように知り合ったかを話します。ある日私は大阪の一軒の台湾料理の店に行きました。その店の女将さんは台湾人で、折よく彼女は私の彼氏の伯母さんです。その時ちょうど彼は日本へ遊びに来ていました。従って私たちはすぐに知り合いました。ちょうど知り合った時、私は彼がなんと言っているのか分かりませんでした。しかし彼は日本語が分かり、私は中国語を書くことが出来、だから私たちはノートを使って喋りをしました。

国籍が違うので、お互いたくさん新鮮感を増えさせ、どんなに話しても話しきれず、言語の問題もなくなりました。外国人と恋愛をするとき、私は皆さんが最も気にするのは言語であると思います。お互いになんとかして考えるのはとても大切ですが、しかしお互い思いやる気持ちが有りさえすれば、たとえ多くの困難があっても克服できます。

彼の助けのおかげで私の中国語は上達しました。外国人の彼氏と付き合うことは語学力向上だけでなく、そのうえ多くの外国文化を学ぶことが出来ます。皆さんも機会があれば外国人の友達と交流してみてください。以上です。

皆さんどうもありがとうございました。

「中国語と出会いの大切さ」

我仔细想，与人相遇是重要的事。因为相遇改变了我的的人生，所以我正在学习汉语。

虽然我是理工系的学生，但是学习汉语。我周围的人对外国的语言没抱着多大的兴趣，我以前也是这样想的。总觉得学习汉语，只想增加知识。不过今年与P老师相遇，令我的想法改变很大。P老师是个热情的人，总是使我们入迷。有时候，老师说消极的我们，“学分无论多少我也出得起。所以我希望你们认认真真地学习汉语，会说汉语，这比什么都重要。”这一言令我感动。

现在我喜欢学习汉语，会说一点儿。还有我将来希望当个国际化的科学家。也许将来有一天，我也能像老师一样，遇见别的人，令他们的人生得到改变。让他们像我一样，认为相遇是件世界上最美的事。

僕は、出会いというものは重要なことだと思つづく思います。なぜなら、出会いが僕の人生を変え、だから僕は現在中国語を勉強しているのです。

僕は理工学部の学生だけれども中国語を勉強しています。僕の周りの人は外国語に対してほとんど興味を持ってなくて、僕も以前はそうでした。結局中国語を勉強して、ただ知識を増やそうと思っていただけでした。しかし今年P先生と出会い、そのことが僕の考えを大きく変えたのです。P先生は情熱的な人で、いつも僕たちは魅了させられます。ある時先生は、消極的な僕たちにこうおっしゃいました。「単位はいくらでもあげる。だから君たちに真剣に中国語を学んで、中国語を話せるようになってほしいのです。このことはどんなことよりも重要なのですよ。」この一言が僕を感動させたのです。

今、僕は中国語の勉強をするのが好きで、少し話すことができます。さらに僕は将来、国際的な科学者になりたいと思っています。もしかしたら将来のある日、僕は先生のようにいろいろな人と出会い、彼らの人生を変えるかもしれません。彼らも僕と同じようになり、出会いというものは世界で一番美しいものになると思います。

「私の趣味」

你们好。

初次见面，请多多关照。

我是文艺学部大二的Q。

今天我想围绕自己的兴趣爱好做个发表。

我从初中到高中一直参加管乐队的训练。

我是负责打击乐的。不论是打鼓还是键盘乐器，我都在行。

虽然毕业了，有时大家还会聚集再一起演奏练习。

当我们团结在一起创作音乐的时候，无论遇到什么困难，我们都会忘记它，反而变成了快乐的一件事。

从小时候开始，我就学过很多乐器，比如说钢琴和小提琴等等。

但是我对打击乐器最感兴趣，也是我最喜欢的乐器。

音乐对我来说是不能用任何语言来传达的。

它是联系着我的心和我的情感的美妙东西。

所以我会一直坚持自己对音乐的热忱。

谢谢大家！

こんにちは。初めまして。文艺学部二回生のQです。

今日は私の趣味について話したいと思います。

私は中学、高校と吹奏楽部に所属していました。

担当は打楽器で、ドラムから鍵盤楽器まで何でもこなします。

卒業した今でも、皆で集まって一緒に演奏をします。

皆で一つになって音楽を作っているときは、どんな嫌なことも忘れることができます。

私は小さい頃からピアノやバイオリンなど沢山の楽器を習っていたけれど、打楽器が一番面白くて魅力的です。

音楽は言葉を使わずに、コミュニケーションをとれる手段です。

だから私はこれからも音楽を続けていくつもりです。

「韓国語を学ぶ」

저는 한국 노래를 듣고 가사의 의미를 알고 싶다고 생각한 것이 가장 큰 계기가 되어, 한국어를 배우기 시작했습니다. 한국어는 일본어하고 어순과 문법이 비슷해서 금방 실력이 늘었습니다. 물론 한국어가 어려워서 좌절할 때도 있었지만, 제가 좌절하지 않고 계속할 수 있었던 이유는 노래, 라디오, 드라마 등을 통해 한국어를 접할 기회가 많아, 친밀감이 계속 있었기 때문입니다. 물론 라디오나 드라마에서의 한국말은, 무슨 의미인지 대부분 모르지만, 외국어를 공부할 때에는 실제 사용되는 언어를 접하면서 공부하는 것이 가장 좋다고 생각하여 많이 듣고 있습니다. 그래서 저도 한국어를 공부하면서 많이 들었더니 조금씩 이해할 수 있는 부분이 늘어, 자신의 실력향상과 더불어 공부하는 보람을 느꼈습니다. 또한 이러한 한국어를 공부하는 보람은 여름방학에 한국의 친구와 한국말로 이야기했을 때, 자신의 한국말이 통해서 회화가 가능할 때 더욱 커졌습니다. 서툰 한국어로 이야기했지만 이것저것 이야기나눌 수 있어서, 한국어로 말을 하는 것이 정말 즐거웠습니다. 저는 친구하고 한국어로 더 많은 이야기를 나누고 싶은 마음이, 열심히 공부해야겠다는 생각의 원동력이 되었습니다. 물론 완벽히 말할 수 있기 위해서는 전문적으로 배워야하겠지만, 한국어를 공부하는 즐거움을 잊지 않고, 앞으로도 더욱 열심히 노력하고자합니다.

私は韓国の歌を聞いて歌詞の意味を知りたいと思ったことが一番のきっかけで、韓国語を勉強し始めました。韓国語は日本語と語順や文法がよく似ていてすぐに実力がつくようになれました。もちろん難しく挫折するときもありましたが、私が挫折することなく続けることができ上達したのは、特に歌やラジオやドラマなどで韓国語に触れ合う機会が多く親密感が続いていたことでした。もちろんラジオやドラマなどでの韓国語は、

何の意味なのかほとんどわからないけれど、外国語を勉強する時は生きた言語に触れ合いながら勉強することが一番良いと思うのでたくさん聞いています。それで私も韓国語を勉強しながらいろいろ聞いていると少しずつだけ分かる部分が増え、自分の実力とともに勉強の楽しみになりました。またこの韓国語勉強の楽しみは夏休みに韓国の友達と韓国語で話せた時、自分の言葉が通じて会話できた時もっと大きくなりました。つたない韓国語だったけれども会話することができて、韓国語を話すことがとても楽しく感じました。私にとって友達ともっと韓国語で話せるようになりたいと思うことが、もっと勉強を頑張ろうと思える原動力となっています。もちろん完璧に話せるようになるには専門的に学ばなければいけません。韓国語を勉強する楽しみを忘れず、今後もいまより頑張って勉強したいと思います。

6. 『パートナーシップ』 及び 『ことばのフェスティバル』 の写真

『パートナーシップ』

交流の様子



参加者同士の名刺交換

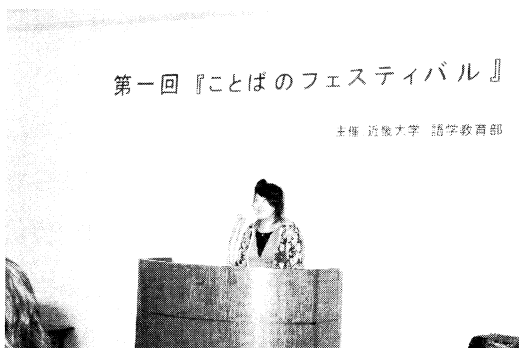


参加者の様子



『ことばのフェスティバル』

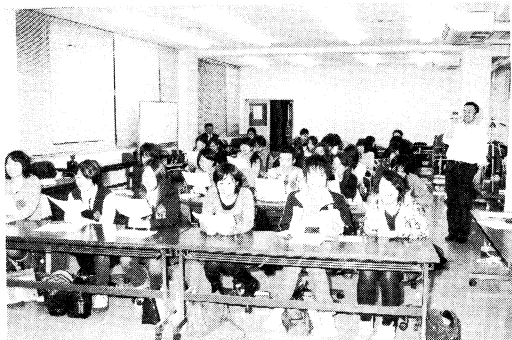
発表の様子①



発表の様子②



クリスマスソング合唱



表彰式



発表者と審査委員



集合写真

